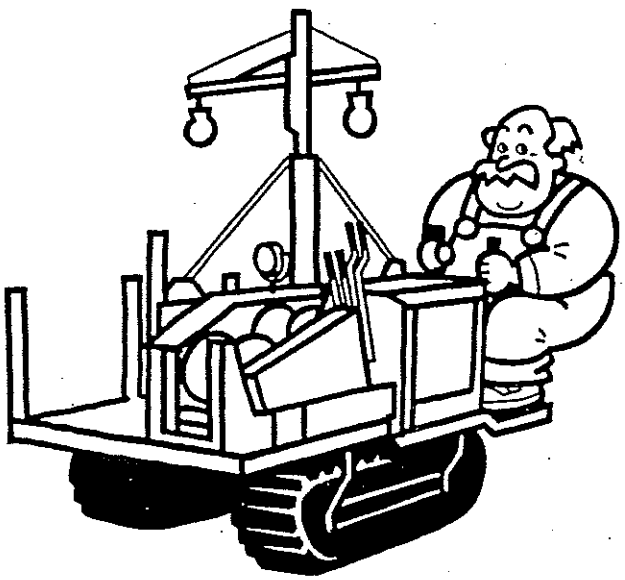
CANYCOM

# 取　扱　説　明　書

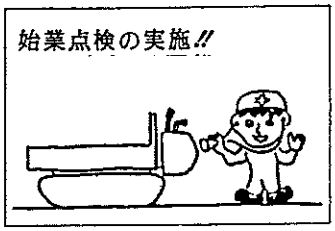
BFY702
BFY706
BFY902
BFY906



株式会社 筑水キャニコム
〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

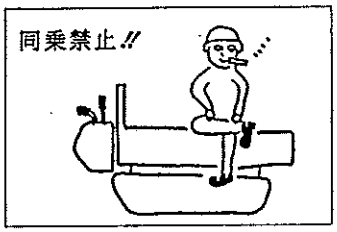
# ⚠安全上の注意

## 安全管理



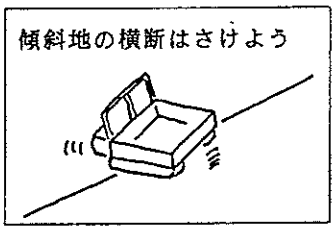

運転の前に始業点検を確実に励行し、異常箇所は直ちに補修してください。

燃料、油脂の取扱い時、バッテリーの充電中や本機の保管場所には火気を近づけないでください。

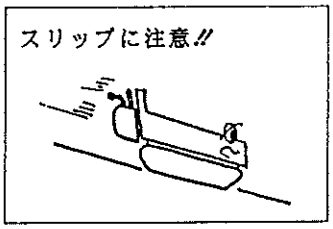



この車両は１人乗りです。急旋回、重心の移動等により危険ですから運転手以外乗らないでください。

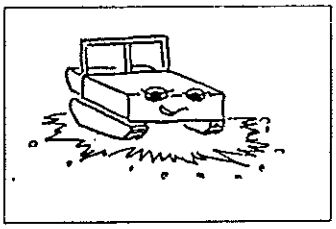
## 作業中の注意



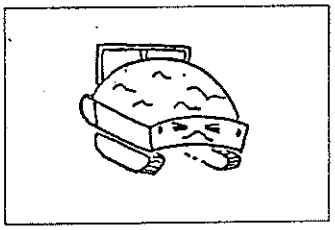

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面をよこぎると危険です。また急傾斜地ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



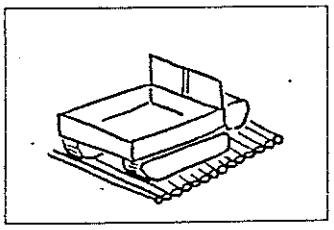

降坂時は変速レバーを低速に入れ、エンジンブレーキを必ず使用してください。



軟弱地盤では、低速で走行し急加速、急旋回および停車はしないでください。



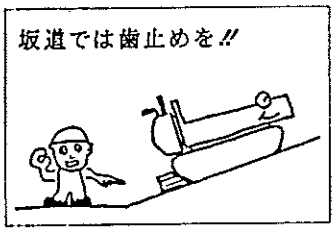
走行速度は、走行時の勾配、路面の状況および荷重に応じた安全速度で走行してください。また過積での走行はしないでください。



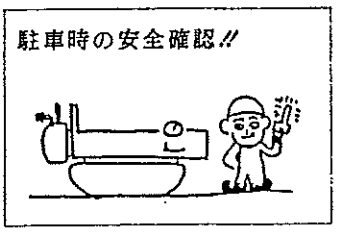
木橋等を渡る時は、本機の自重と積載重量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で静かに通過してください。

## 駐停車時の注意

駐停車する場所は足場のよい平坦地に止め危険な場所は避けましょう。

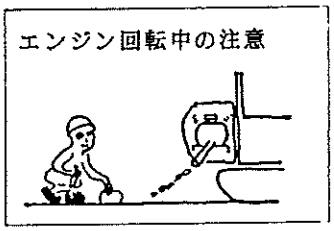



やむなく坂道で駐車する時は歯止めをかけてください。

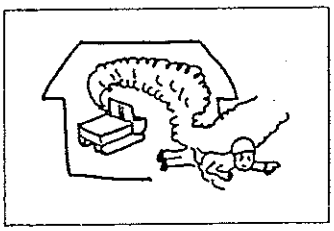



駐車時は、駐車ブレーキをかけエンジンを停止してキーを忘れずに抜きましょう。
（セルスタート式のみ）

## 点検・整備時の注意




エンジン回転中は整備を行わないでください。



室内でエンジン運転する時は排気ガスによる中毒防止のため換気をよくしてから作業を行ってください。

# 目　次


| 項　目 | 頁 |
|---|---|
| サービスと保証について | 1 |
| 本製品の規制について | 1 |
| 事業者の皆様へ | 1 |
| 運転装置の説明 | 2 |
| 各部の名称 …… | 2 |
| 各部のはたらき …… | 3 |
| 上手な運転のしかた | 4 |
| 始動の準備 …… | 4 |
| 始動のしかた …… | 4 |
| 運転のしかた …… | 8 |
| 停止のしかた …… | 10 |
| 走行路の確保 …… | 12 |
| 本機の移送 …… | 12 |
| 本製品の簡単な手入れと処置 | 13 |
| 給油・注油 …… | 13 |
| 給脂・注油 …… | 14 |
| 走行クラッチ調整 …… | 15 |
| ブレーキ調整 …… | 15 |
| サイドクラッチ調整 …… | 16 |
| ベルトストッパー調整 …… | 17 |
| クローラ張り調整 …… | 17 |
| ウインチクラッチ・ブレーキ調整 …… | 18 |
| 巻胴ブレーキ調整 …… | 18 |
| ウインチ装置の説明 | 19 |
| 各部の名称とはたらき …… | 19 |
| ウインチ操作要領 …… | 21 |
| 集材作業 …… | 22 |
| ワイヤーロープの取扱い …… | 26 |
| 索張り時の使用例 …… | 27 |
| バッテリー使用上の注意(セル付仕様車のみ) | 28 |
| 格納 | 28 |
| 寒冷時の注意 | 29 |
| 工具袋明細 | 29 |
| 定期自主点検表 | 30 |
| 仕様 | 36 |

このたびは本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、製品の正しい取扱い方法と点検整備を説明してあります。
安全な運転および製品の性能を十分発揮させるため、御使用前には必ずお読みください。
なお、仕様変更などによりこの取扱説明書の内容が一部、実機と異なる場合がありますので御了承ください。

印は、運転・整備作業時に作業者の安全上、特に重要な部分であり必ず守ってください。

## サービスと保証について

本製品には保証書交付申請書がついていますので、必要事項を記入して郵送してください。
なお、御使用中の故障・御不審な点およびサービスに関する御用命は、お買い上げいただいた販売店または当社営業にお気軽に御相談ください。
その際、商品型式と製造番号、搭載エンジンの型式名を併せて御連絡ください。

| | |
|---|---|
| BFY○○○ | ← 商品型式 |
| 製造番号 Product No. ○○○○○○1 | ← 製造番号 |
| | ← 製造メーカー名 |

本製品の保証期間は購入後６ヶ月間となっています。

注意：「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合および仕様を超えた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

## 本製品の規制について

本製品は、道路上での運転はできません。
道路上での運転による事故および違反につきましては責任を負いかねます。

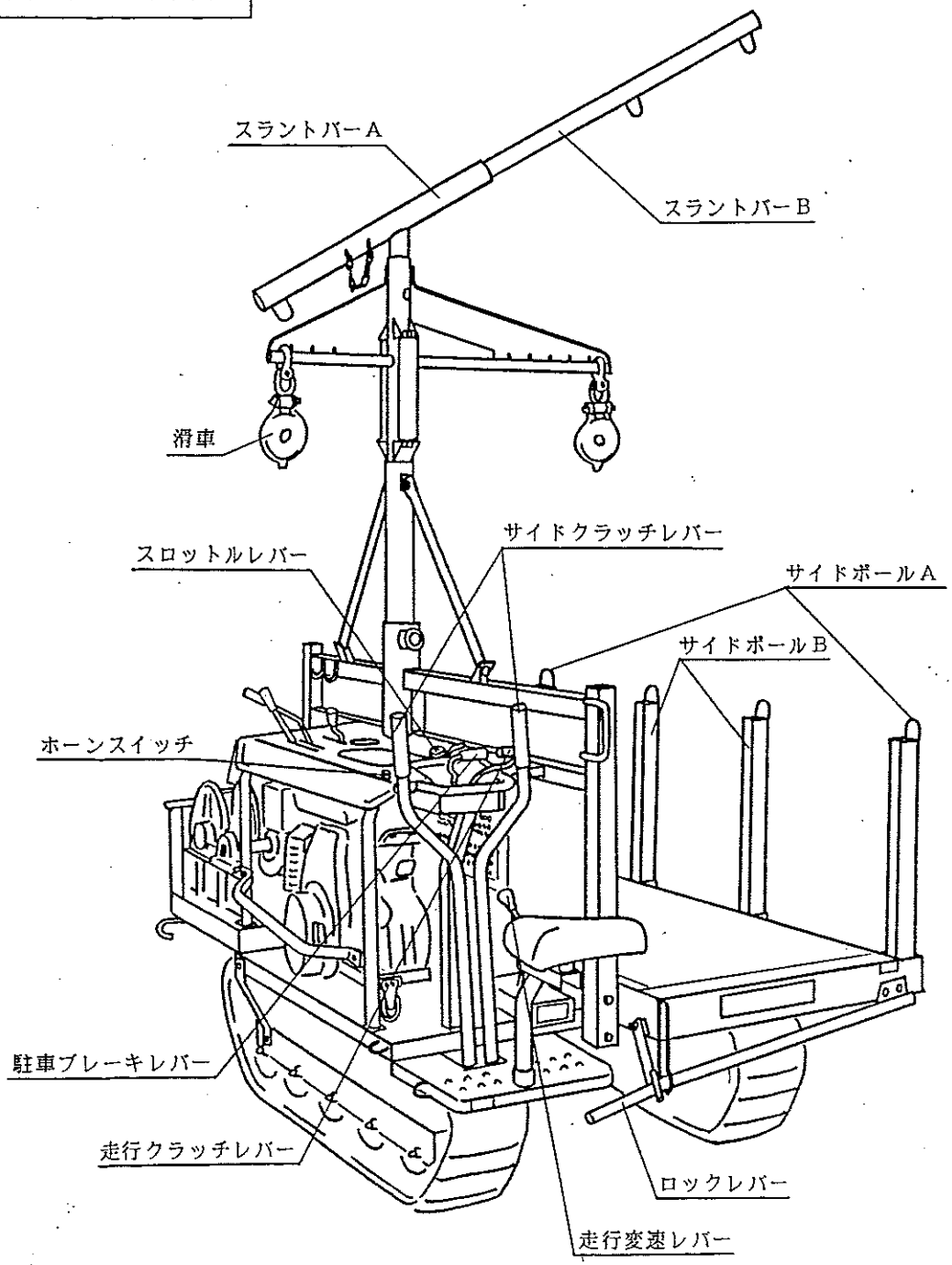
注意：道路以外でも人や車が自由に出入りできる場所も道路とみなされます。

## 事業者の皆様へ

月例点検・年次点検記録は３年間保存してください。
労働者を新たに林内作業車を使用する集材作業に就かせる場合には、あらかじめ関係労働者に対して、安全教育を実施してください。

# 運転装置の説明

## 各部の名称

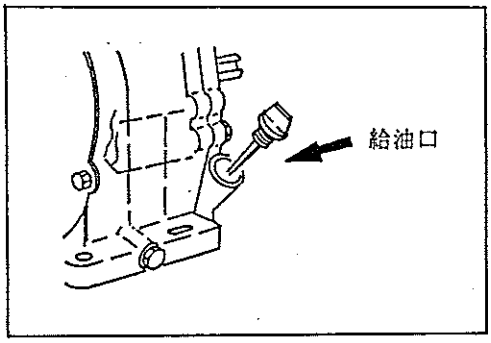


## 各部のはたらき

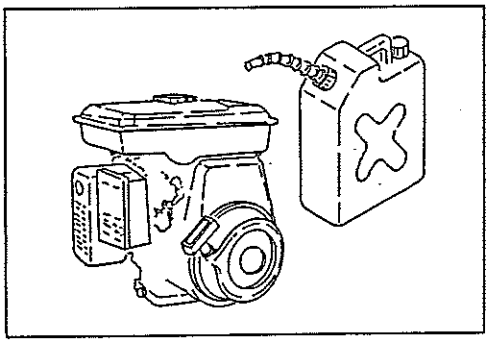
| | |
|---|---|
| ☆スロットルレバー | ・エンジン回転数の増減を行います。 |
| ☆サイドクラッチレバー | ・方向を変える時に使用します。<br>車体はレバーを引いた側へ曲がります。<br>また、左右同時にレバーを引くとその場で急停止します。 |
| ☆走行クラッチレバー | ・エンジンからミッションへの動力を断続させます。<br>レバーを前方に倒すと「入（発進）」の状態、手前に倒すと「切（停止）」の状態になります。 |
| ☆駐車ブレーキレバー | ・車体を確実に駐車させます。<br>レバーを前方に倒すと「切（ブレーキ解除）」の状態、手前に倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態になります。 |
| ☆走行変速レバー | ・走行速度の選択に使用します。<br>変速は走行クラッチレバーを「切」にして、車体が停止した状態で行ってください。 |
| ☆ロックレバー | ・サイドボールＡ（２本）を解除および固定する時に使用します。 |
| ☆サイドボールＡ | ・材木等の荷下ろしの時、ロックレバーを上に上げるとサイドボールＡは外れます。 |
| ☆サイドボールＢ | ・短尺材等の運搬時に使用し、材木が荷台から落下するのを防ぎます。 |
| ☆滑車 | ・ロープを使って集材する時に使用します。 |
| ☆ホーンスイッチ | ・ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。<br>走行する時の警報・作業の合図等に使用します。 |

# 上手な運転のしかた

## 始動の準備



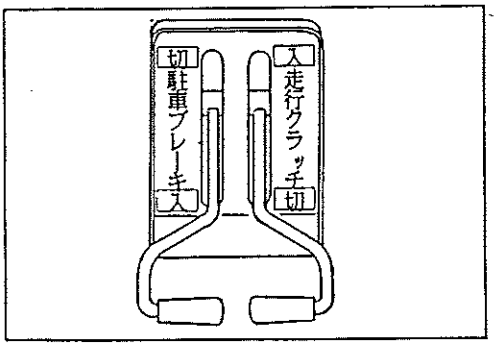

エンジンオイルを確認してください。
オイルの量、および種類は付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。



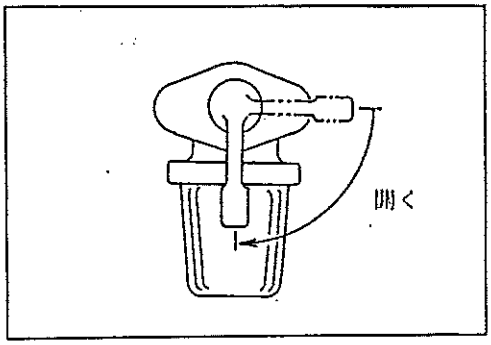
ガソリンエンジンにはレギュラーガソリン、ディーゼルエンジンの場合は軽油を入れます。
燃料タンクの容量については付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。

燃料を入れる時は必ずエンジンを停止させてください。
エンジンが熱い時は燃料をこぼさないよう注意してください。

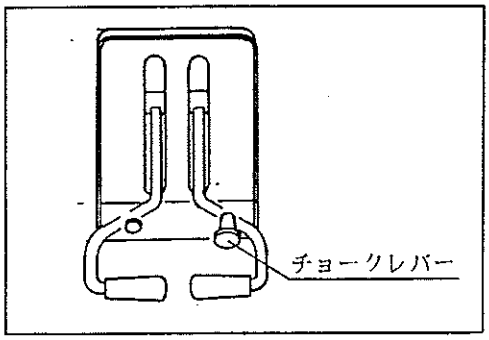
## 始動のしかた




走行クラッチレバーが「切」に、駐車ブレーキレバーが「入」になっていることを確認します。

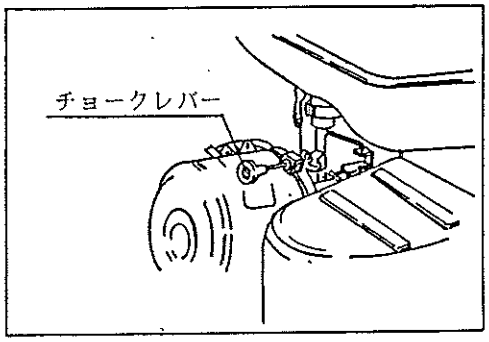


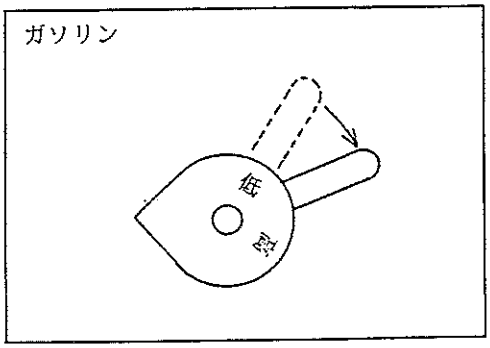

燃料コックを開きます。



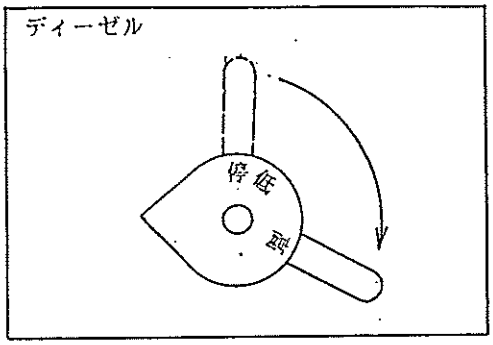

チョークレバーを引き、チョーク弁を閉じます。
（ディーゼルエンジンにはありません。またエンジンにより、チョークレバーの位置が異なります）

注意
エンジンが暖まっている時はチョークレバーを引く必要ありません。



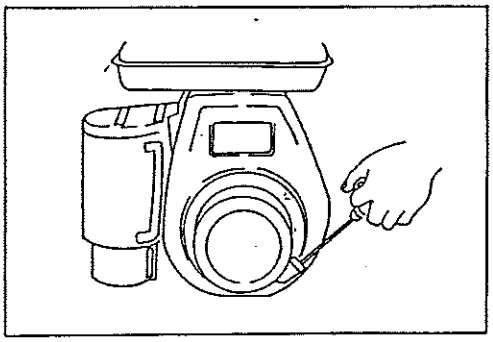

スロットルレバーを「低」と「高」の中間の位置にします。




ディーゼルエンジンは「高」位置にします。

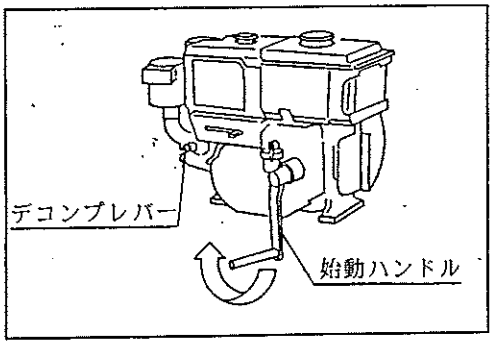
エンジンの始動方法は、エンジン種類により異なりますので御注意ください。

## リコイルスタータ式　（ガソリン）



スタータノブを握り勢いよくひっぱります。
エンジンが始動しだしたらスタータノブをゆっくりと元の位置に戻してください。

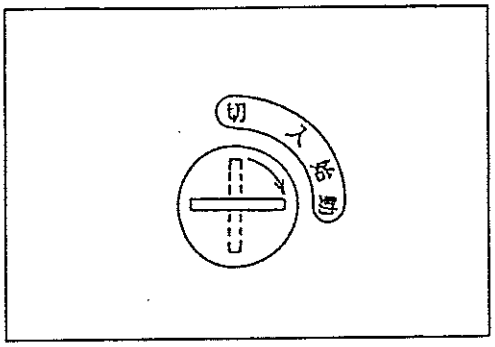
## 増速ハンドル式　（ディーゼル）



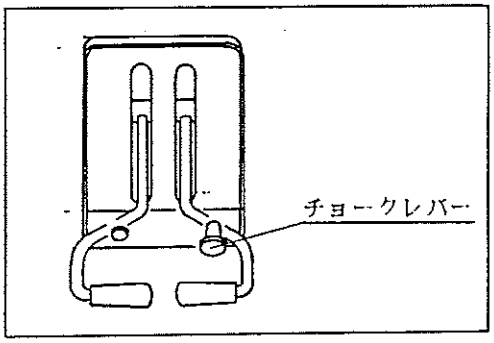

始動ハンドルを差し込み、少し回してハンドルを引き上げる位置（下側）で圧縮がかかるようにします。反対の位置（上側）にくる場合は、ハンドルをはめなおします。
次に左手でデコンプレバーを操作し、ハンドルを勢いよく回します。惰性がついたらデコンプレバーを放し、同時にハンドルに更に力を入れ始動するまで回します。

始動時は、絶対にハンドルから手を放さないでください。ハンドルから手を放しますとハンドルが軸と共に回り、大変危険です。ハンドルはエンジンが始動しはじめると自然に抜けます。

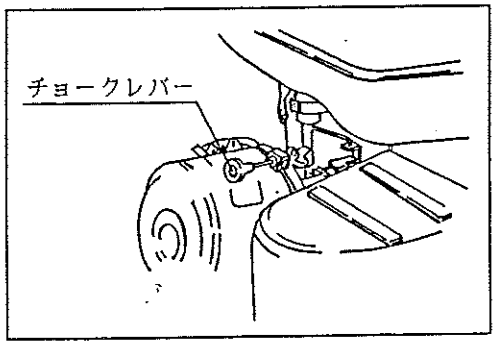
## セル付エンジン　（ガソリン、ディーゼル）

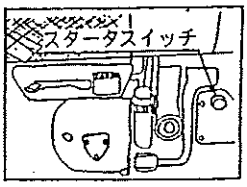



エンジンキースイッチを「始動」位置に回し始動させます。始動しだしたら直ちにキースイッチから手を放してください。
セルモータを５秒程度回しても始動しなければ、１０秒以上休んで再始動してください。




エンジン始動後はチョークレバーを戻してください。
（ディーゼルエンジンにはありません。またエンジンにより、チョークレバーの位置が異なります）



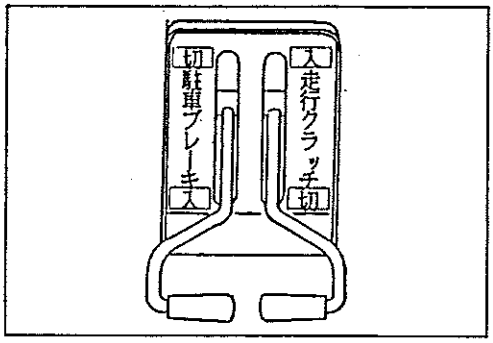

尚、クボタディーゼルエンジンの場合は、スタータスイッチを押して始動してください。

**注意**

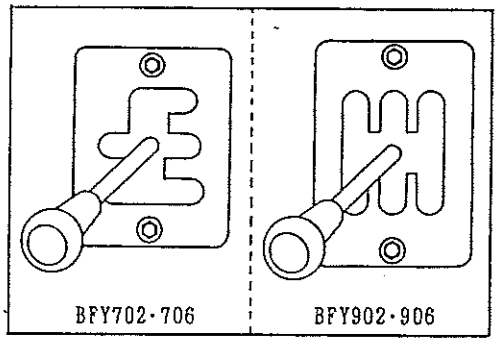
(1)エンジン回転中に、キーを「始動」位置にするとセルモータが破損することがありますので、絶対にしないでください。

(2)エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分間位、低速側で暖気運転してください。

## 運転のしかた

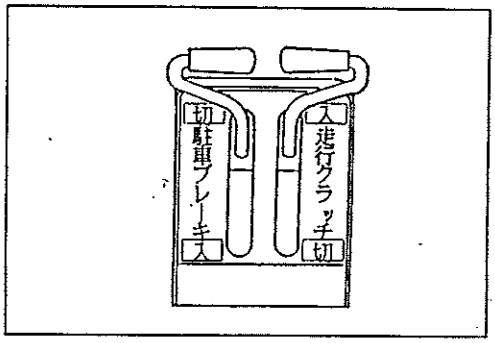



走行クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認します。

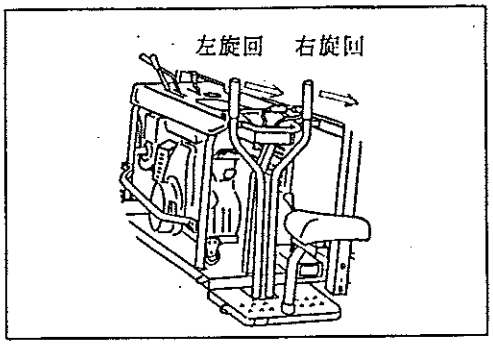



前進　３段　　後退　２段　(BFY702・706)
前進　４段　　後退　２段　(BFY902・906)
走行変速レバーを所要変速位置に確実に入れます。

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。
ギヤが入りにくい時は無理に入れずに、走行クラッチレバーを「入」へ少し動かし確実にギヤチェンジを行ってください。




駐車ブレーキレバーを「切」の位置へ倒し、走行クラッチレバーを「入」の位置に徐々に入れます。

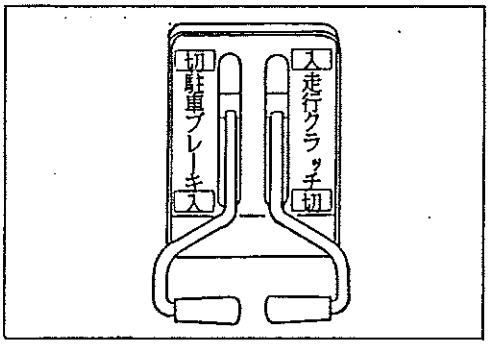



旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを手前に引くとその方向へ旋回します。
※旋回半径は、サイドクラッチレバーの操作力により任意に変化させることが可能です。
軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。

**走行時の注意**

(1)発進する時は、周囲の安全を確認して発進してください。
(2)急激な発進および制動はなるべくお避けください。
(3)急斜面では、サイドクラッチレバーの引き具合で、車体がレバーを引いた方向と逆に挙動することがありますので注意してください。
(4)走行の際に、転倒または転落のおそれがある時は、誘導する人を配置し、その人に本機を誘導させ走行の安全を確保してください。
(5)河川敷、砕石地盤上、鉄筋、丸太上での使用はできるだけ避けてください。
ゴムクローラの寿命が著しく短くなります。
(6)本機により材をけん引する際には、次の事項に注意してください。
・勾配の急な走行路、曲線半径の小さい走行路等で材をけん引する場合は、速度を十分に落としてください。
・走行等に支障が生じないように、けん引する材は、適度の長さとするか材の滑落防止の措置をとってください。
(7)１５°～２０°の傾斜地では、積載量をＢＦＹ９０２・９０６は５００kg以下に、ＢＦＹ７０２・７０６は４００kg以下にして走行してください。
また、２０°を超える急傾斜地ではなるべく使用しないでください。
やむを得ず使用する場合は空車状態とし、山側にて運転操作をしてください。

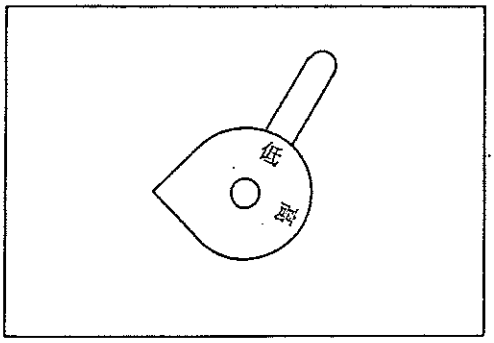
## 停止のしかた



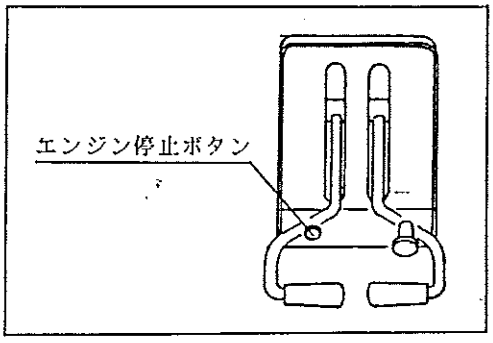

走行クラッチレバーを「切」の位置へ、駐車ブレーキレバーを「入」の位置へ操作し車体を確実に駐車させます。

緊急の場合は両レバーを同時に手前に引いてください。車体は急停止します。
なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので十分注意してください。

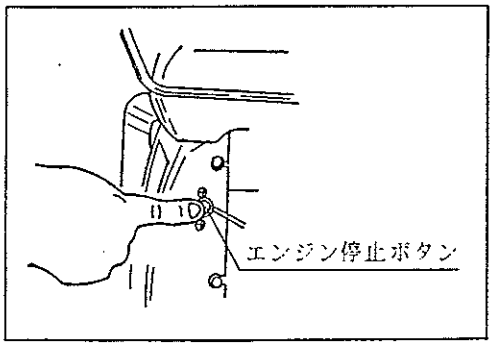
### リコイルスターター式 （ガソリン）



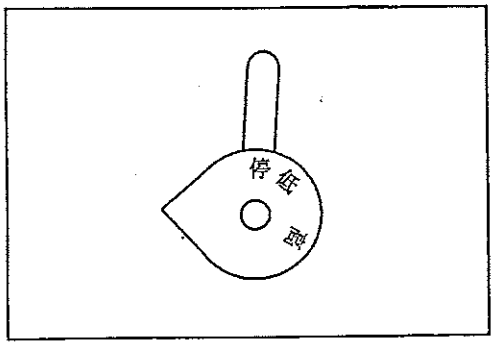

スロットルレバーを「低」にします。




エンジン停止ボタンを押します。
（エンジンによりエンジン停止ボタンの位置が異なります）

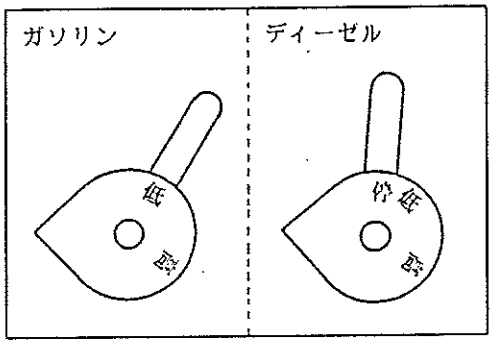


## 増速ハンドル式　（ディーゼル）

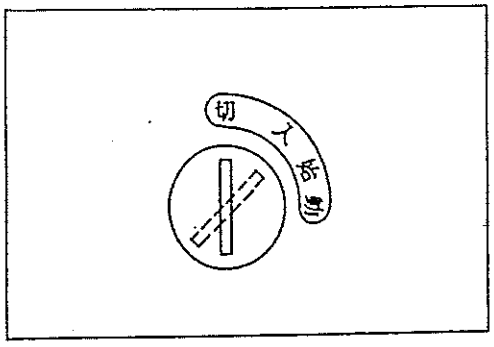



スロットルレバーを「停」にします。

## セル付エンジン　（ガソリン、ディーゼル）



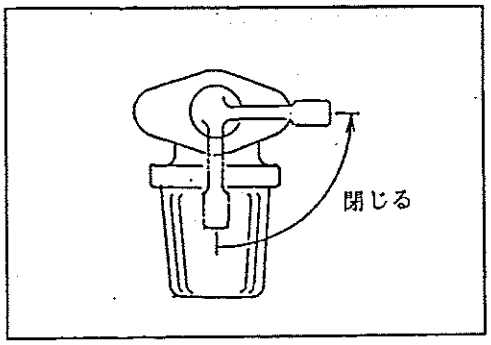

スロットルレバーを「低」または「停」にします。




キースイッチを「切」にします。
キーを抜きます。

**注意**

ディーゼルエンジンはスロットルレバーを「停」にした時エンジンが停止しますが、その際キースイッチを切ることを忘れないでください。
バッテリー上がりの原因になります。




最後にリコイルスタータ式および増速ハンドル式、セル付エンジンのいずれも燃料コックを閉じます。

## 走行路の確保

(1)走行路は本機が安全に走行できる幅員とし、少なくとも１．２ｍ以上とし、走行路の曲線部は必要に応じて幅員を大きくしてください。
(2)斜面を横断する走行路は切取り路面を原則とし、盛土路面については必要な補強措置をとってください。
(3)走行路の勾配は、２０° 以下としてください。
(4)木橋等は、本機の走行に十分耐えられる材料および構造としてください。
(5)走行路は、なるべく凹凸のないよう整地しておくとともに根株、岩石等は走行に支障のないようにあらかじめ除去してください。
(6)土場は土砂の崩壊、落石、流水等のおそれのない場所を選定し、本機およびトラックの方向転換が安全にできる広さを確保してください。
(7)走行路を確保するための作業を行う時は、作業現場の崩壊および浮石等の落下の防止に十分配慮してください。

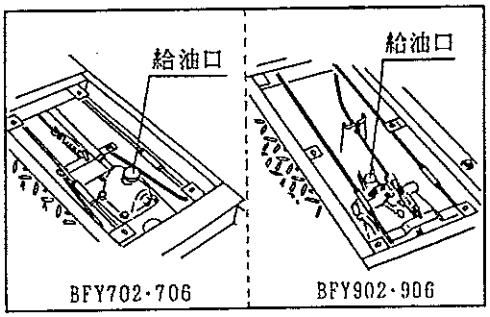
## 本機の移送

(1)本機の積卸しをする場合は、平坦で堅固な場所において行ってください。
(2)道板、盛土、仮設台等を使用する時は本機の転倒、転落による危険を防止するための措置をとってください。

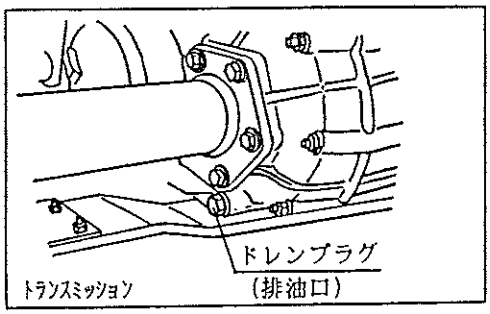
# 本製品の簡単な手入れと処置

## 給油・注油

給油がおろそかになりますと、回転が円滑に行われないばかりでなく故障の原因となって機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。

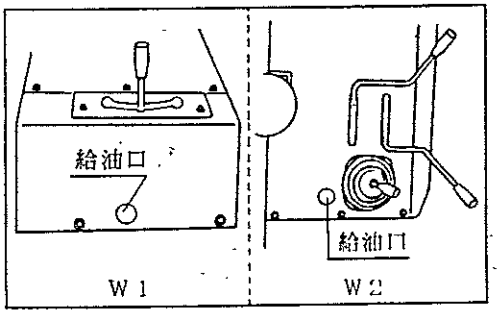



☆トランスミッション
ギヤオイル　BFY702・706…２．０ℓ
　　BFY902・906…２．４ℓ
ＡＰＩ：ＧＬ４またはＧＬ５
ＳＡＥ：＃８０



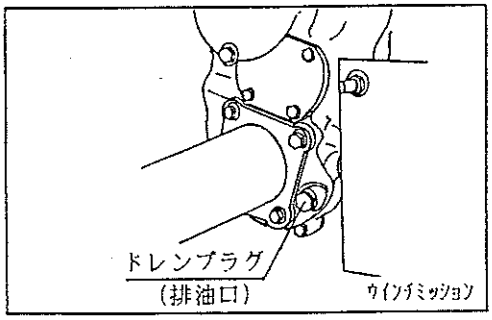

・ミッションオイルの交換
初回は５０時間目。
２回以降は５００時間毎。

※ミッションの注油は荷台のカバーを外して注油キャップおよびそのまわりのゴミを取り除いた後に行ってください。

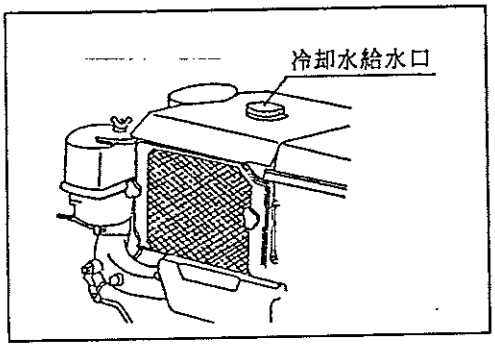



☆ウインチミッション
ギヤオイル　Ｗ１タイプ…１．５ℓ
　　Ｗ２タイプ…２．０ℓ
ＡＰＩ：ＧＬ４またはＧＬ５
ＳＡＥ：＃８０

注意
給油はウインチミッションのキャップを外し左図の給油口より付属のジョウゴで給油してください。




・ウインチミッションオイルの交換
初回は５０時間目。
２回以降は５００時間毎。




## 冷却水　（ディーゼルのみ）

・クボタ

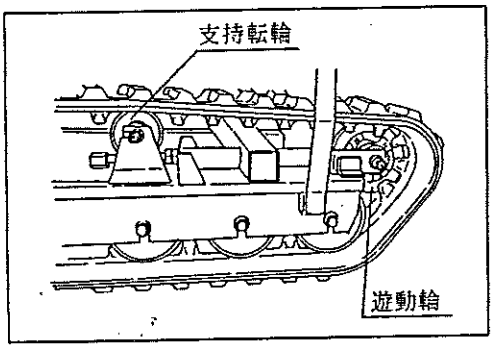
| | 冷却水容量 |
|---|---|
| EA8N | 1．3 ℓ |
| EA7N | 1．2 ℓ |

・三　菱

| | 冷却水容量 |
|---|---|
| D800 | 1．5 ℓ |
| D700 | 1．5 ℓ |

⚠ 冷却水の凍結を防ぐため、冷却水に不凍液（４０％）を混合して御使用ください。
運転中および停止直後、注水口のキャップをあけると熱湯が噴出してやけどをすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（停止後約１０分程度）あけてください。
なお、冷却水（不凍液混合水）は工場出荷時に給水済みです。

## 給脂・注油




〈給脂箇所〉

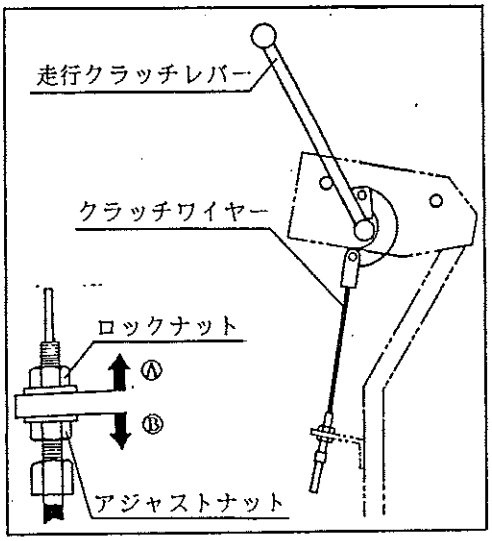
☆支持転輪、遊動輪

支持転輪、遊動輪の給脂は半年に１回行ってください。
（購入後、半年間は給脂不要です）
手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら直ちに給脂を中止してください。エアー式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。

注意

(1)グリースを入れすぎると故障の原因となりますので御注意ください。
(2)各摺動部にはグリース塗布、または注油を行い焼き付きやサビを防止してください。
(3)転輪は無給脂式ですので給脂の必要はありません。

## 走行クラッチ調整




走行クラッチの調整は、左図のクラッチワイヤーのアジャストナットで行ってください。
要領は下記の通りです。

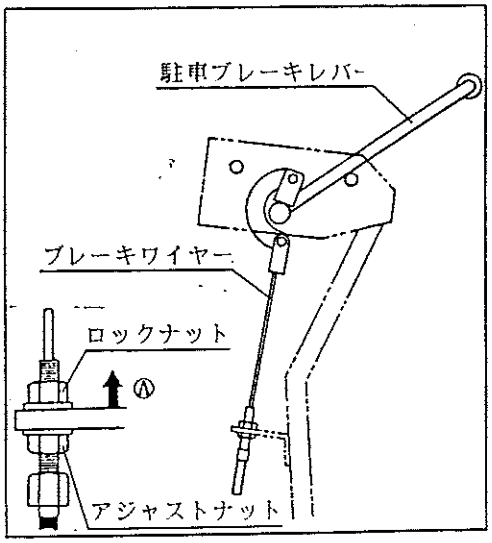
・走行クラッチの切れが悪い場合
　アジャストナットをⒷの方向へ。

・Ｖベルトがすべる場合
　アジャストナットをⒶの方向へ。

調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

## ブレーキ調整

最も重要な調整にブレーキ調整があります。
少しでも甘くなったりした場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全を心がけるようにしてください。



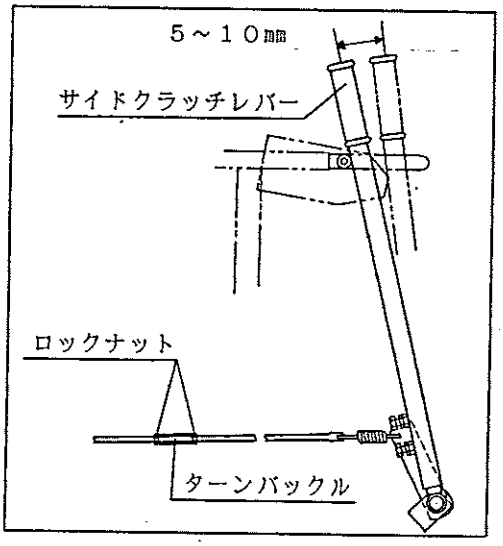

ブレーキ調整は、左図のブレーキワイヤーのアジャストナットで行ってください。

・ブレーキのききが悪い場合
　ロックナットを緩めアジャストナットをⒶの方向へ回転させブレーキ「入」でトランスミッションとブレーキワイヤーをつないでいるバネが２㎜程度延びるよう調整してください。

調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

## サイドクラッチ調整

・サイドクラッチレバーに遊びが多くなった時は、ターンバックルにて調整してください。
（ミッション脱着時およびロッド類のオーバーホール時以外はほとんど調整の必要はありません。旋回不良の場合はまず下記のブレーキ調整を行ってください）

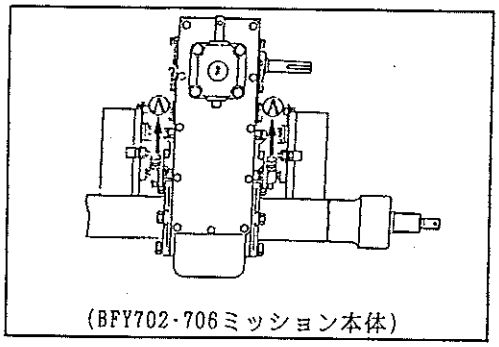



※サイドクラッチレバーの遊びはレバーにぎり部で５～１０㎜程度とってください。

ターンバックルはロックナットを緩めて調整してください。
ロッドが縮む方にターンバックルを回すとレバーの遊びは少なくなります。
調整後は、ロックナットでターンバックルを確実にロックしてください。

※荷台のカバーを外して調整を行ってください。

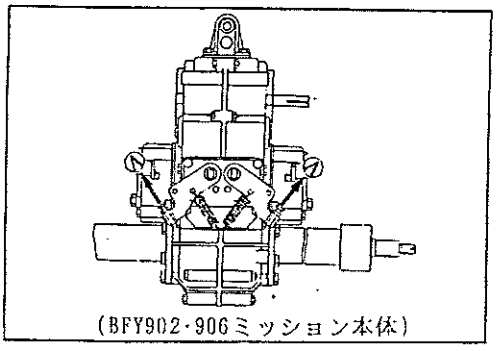
・サイドクラッチのきれが悪い時（サイドクラッチギヤが抜けていて尚且つクローラが止まらない場合）は、ブレーキアジャストボルトにて調整してください。



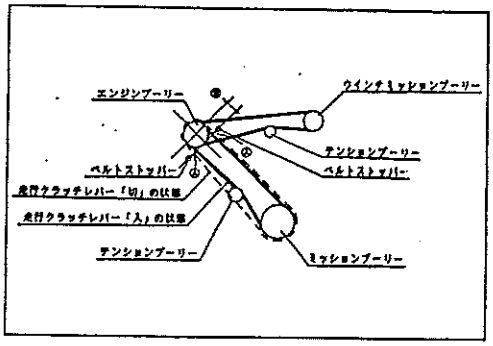
(BFY702･706ミッション本体)

・ロックナットを緩めた後、ブレーキアジャストボルトをⒶの方向へ。
調整後、必ずロックナットを締めてください。

※荷台のカバーを外して調整を行ってください。


(BFY902･906ミッション本体)

## ベルトストッパー調整

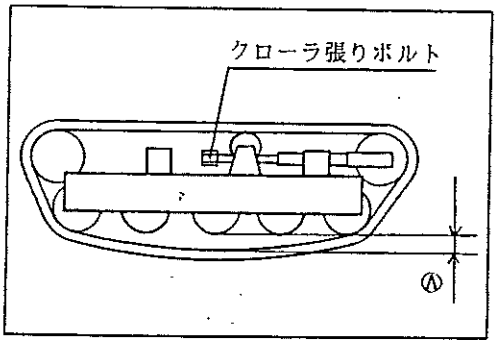



走行クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパーの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパーを外した場合、以下のように調整してください。

ベルトストッパーは走行クラッチレバーが「入」の状態で、Ｖベルトとベルトストッパーの間隔Ⓐを５～６㎜程度に、Ⓑの間隔を１０～２０㎜程度にセットします。

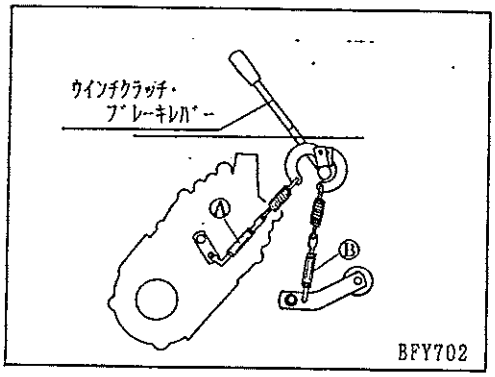
必ずエンジンを止めた状態で行ってください。
ベルトストッパーと他のＶベルトとのスキマを５㎜以上あけてください。
（走行クラッチレバーが「入」の状態にて）

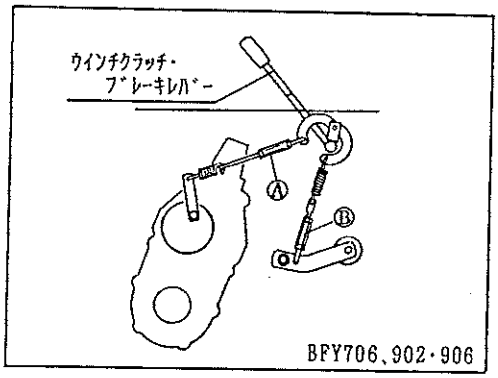
## クローラ張り調整




クローラは新しい間の初期伸び、スプロケットとのなれによる緩みが生じますので、クローラ張りボルトにて調整してください。
図のように運搬車を地面と平行に浮かせた状態でクローラと転輪のスキマⒶを１０～１５㎜とします。

## ウインチクラッチ・ブレーキ調整




**ブレーキ調整**

ウインチクラッチ・ブレーキレバーが「ブレーキ入」の状態でスプリングが約２㎜伸びるよう、Ⓐのターンバックルにて調整します。

**クラッチ調整**

ウインチクラッチ・ブレーキレバーが「クラッチ入」の状態でベルトがすべる場合は、Ⓑのターンバックルをロッドが縮む方向に、クラッチの切れが悪い場合は、Ⓑのターンバックルをロッドが伸びる方向へ調整してください。

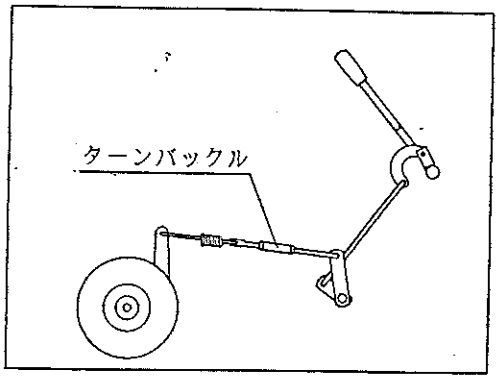
**注意**

**ウインチ・ブレーキ調整後**

ウインチクラッチ・ブレーキレバーが「ブレーキ切」（Ｗ２タイプは巻胴ブレーキレバーも「切」）の状態でウインチ変速位置を中立にし、空引きレバーを解除して巻胴を手で回し、ウインチミッションのブレーキドラム内に当たりがなくスムーズに回るか確認してください。

## 巻胴ブレーキ調整

（Ｗ２タイプのみ）




巻胴ブレーキレバーが「入」の状態でスプリングが約２㎜伸びるよう、ターンバックルにて調整してください。

**注意**

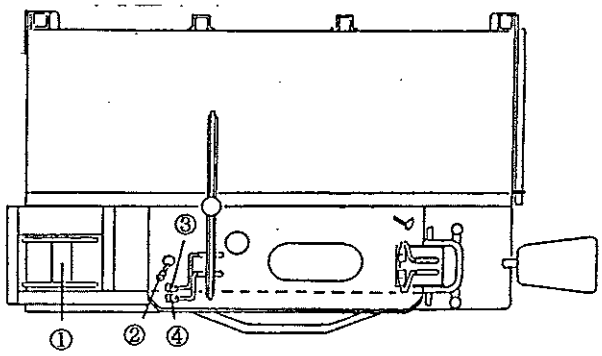
**巻胴ブレーキ調整後**

巻胴ブレーキレバーが「切」の状態で、空引きレバーを「空引き」の位置にし、巻胴を手で回して巻胴のブレーキドラム内に当たりがなく、スムーズに回るか確認してください。

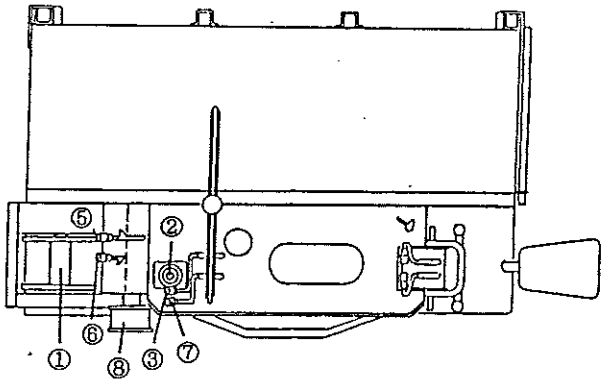
# ウインチ装置の説明

## 各部の名称とはたらき

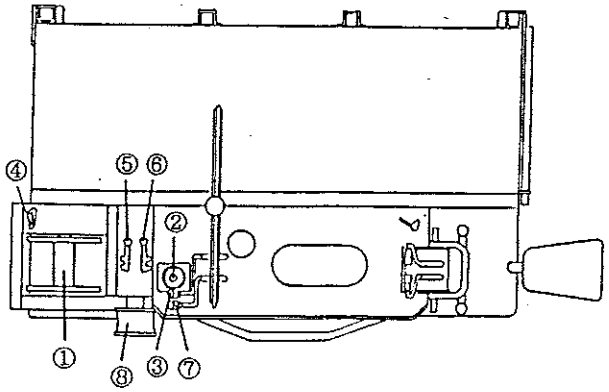
<BFY706・BFY906. W1>




<BFY702. W2>




<BFY902. W2>




①巻胴
・ワイヤーを巻きつける主ドラムです。

②ウインチ変速レバー
・巻胴、エンドレスドラムの変速時に使用します。

③ウインチクラッチ・ブレーキレバー
・エンジンからウインチミッションへの動力を断続、制動（停止および解除）させます。

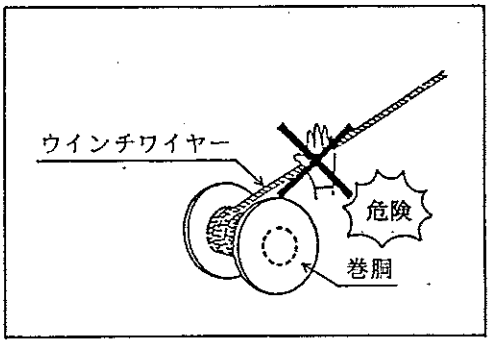
④空引きレバー
・ワイヤーのくり出し作業時に使用します。

⑤エンドレスクラッチレバー
・動力をエンドレスドラムへ断続、制動（停止および解除）させます。

⑥巻胴クラッチレバー
・動力を巻胴へ断続させます。（BFY702）
・動力を巻胴へ断続、制動させます。（BFY902）

⑦巻胴ブレーキレバー
・巻胴を制動（停止および解除）させます。

⑧エンドレスドラム
・索張り時等に使用します。




エンジン運転中はウインチワイヤーに“絶対”手を触れないようにしてください。手を損傷・切断するおそれがあります。
また手袋、ダブついた衣服での作業は巻き込みの危険があるのでキチッとした服装で作業を行いましょう。

## ウインチ作業にあたって

本機はウインチが装備されていますので、幅１．７ｍ程度の作業道または空き地があれば適当な場所に車体を駐車させてウインチで集材作業を行うことができます。
また本機に集材した材木を積載してすぐに搬出できますので、集材作業の省力化ができます。

# ウインチ操作要領

## １．Ｗ１タイプ操作要領

①ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」の位置にした後、ウインチ変速レバーを使用する位置に入れます。

②ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」の位置にすると巻胴は作動します。

＊ワイヤーをくり出す時は、空引きレバーをステッカーに示す矢印方向へ操作して使用してください。但し、巻胴作動中は操作しないでください。

## ２．Ｗ２タイプ操作要領

(1)巻胴を使用する時

①ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」の位置にし、エンドレスクラッチレバーを中立、または「ブレーキ入」にした後、ウインチ変速レバーを使用する位置に入れます。

②巻胴クラッチレバーを「巻胴入」の位置にして巻胴ブレーキレバーを「切」の位置にし、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」の位置にすると巻胴は作動します。

＊ワイヤーをくり出す時は、空引きレバーをステッカーに示す矢印方向へ操作して使用してください。但し、巻胴作動中は操作しないでください。(BFY902のみ)

(2)エンドレスドラムを使用する時

①ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」の位置にし、巻胴クラッチレバーを中立、または「ブレーキ入」にした後、ウインチ変速レバーを使用する位置に入れます。

②エンドレスクラッチレバーを「エンドレス入」の位置にして、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」の位置にするとエンドレスドラムは作動します。

(3)巻胴、エンドレスドラムを同時に使用する時

①ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」の位置にし、ウインチ変速レバーを使用する位置に入れます。

②巻胴クラッチレバーを「巻胴入」、およびエンドレスクラッチレバーを「エンドレス入」の位置にして巻胴ブレーキレバーを「切」の位置にし、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」の位置にすると巻胴、およびエンドレスドラムは作動します。

## 集材作業

1．荷掛け

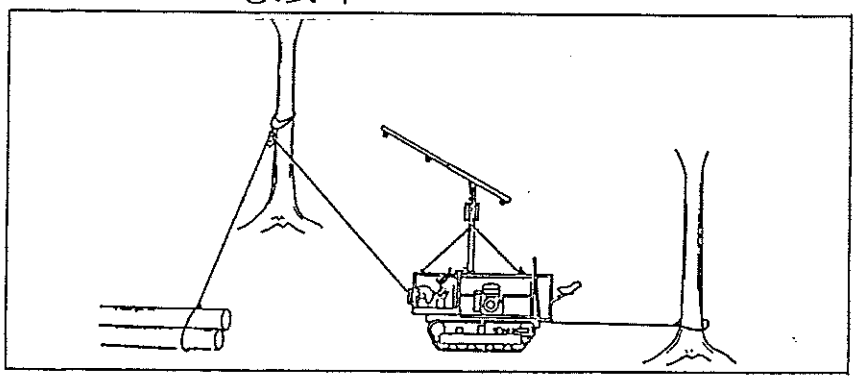
作業は材を安定させ、重なり合っている材は上の材から順次荷掛けを行ってください。

2．木寄せ

ウインチのみで地引きする時

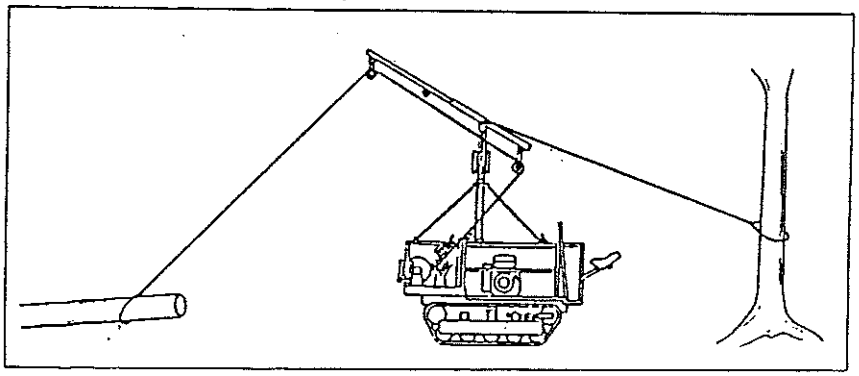
（図のように立木等を利用し、なるべく高い位置から材を引くようにしてください）

８００kg以下



ウインチとポール使用時

２００kg以下



(1)ウインチで材を引き寄せる時は、本機を立木や伐根にワイヤーロープ等で堅固に固定してください。

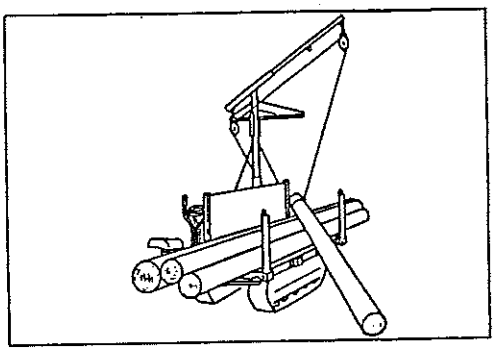
(2)ウインチとポールを用いて材を引き寄せる時は、本機の転倒を防止するため、ポールの上部に控えのロープを取り付けてください。

(3)直引きによる木寄せ作業は、ウインチの巻き込み方向と材の引き寄せ方向が同一になるようにしてください。但し、急斜面において材の引き上げまたは引き下げを行う場合は、ガイドブロック等を用いて安全を確保してください。

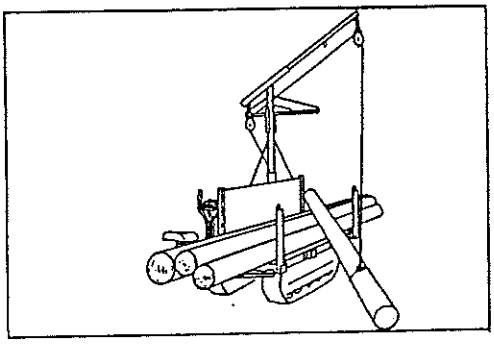
(4)材を引き寄せる時は伐根、立木等の障害物を避けるように作業を行ってください。

(5)ウインチと立木に付けたガイドブロックは、必ず正対させてください。

## 3．積み込み

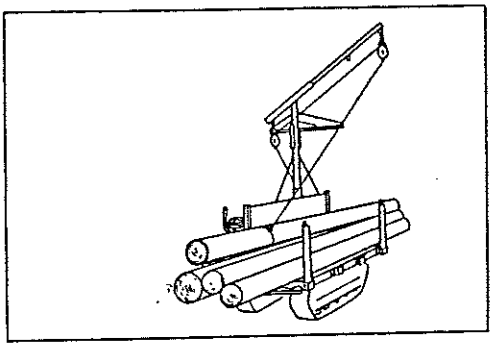


巻胴のワイヤーを材の木口（材の端から５～１０㎝位）に掛け木寄せを行い、材の先端を荷台に載せます。
ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切」にします。
ウインチ変速を逆転(R)にし、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入」にするとワイヤーは緩みます。

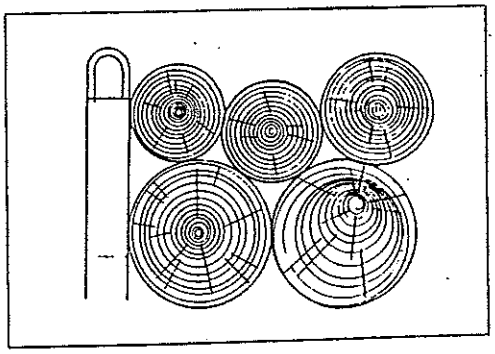


巻胴のワイヤーを材の中央部に掛け換えます。
この際、荷台に載っている側がやや、重めになるような位置にワイヤーを掛け換えてください。

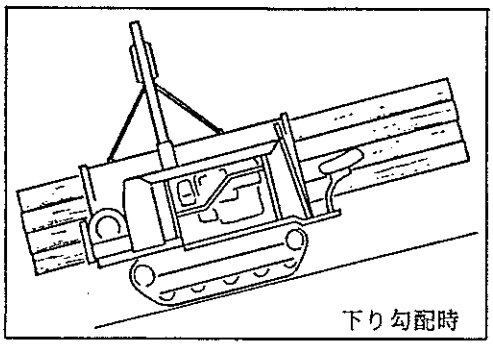
ワイヤー掛け換えの際、材が荷台から転がり落ちないよう十分注意してください。



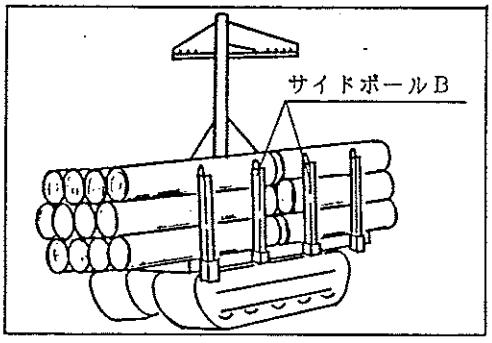
ウインチ変速を正転(F)にし、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入」にし、材を荷台中央部に積み込みます。



積載は左図のように、サイドボールに接した最上段の材の直径の約３分の１以上が、サイドボールの先端からでないように積み込んでください。



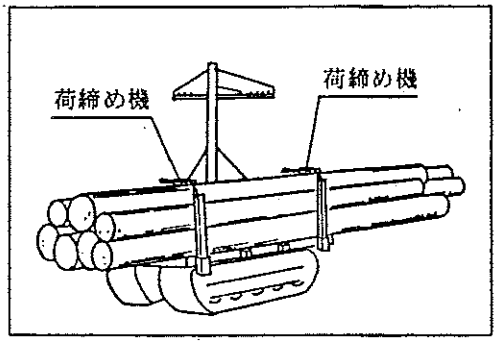

材は重心を低くし、かつ偏荷重が生じないように積載し、積荷を安定させてください。
下り勾配時は後荷、登り勾配時は前荷になるよう積み込んでください。




短尺材の場合、サイドボールBを使用してください。

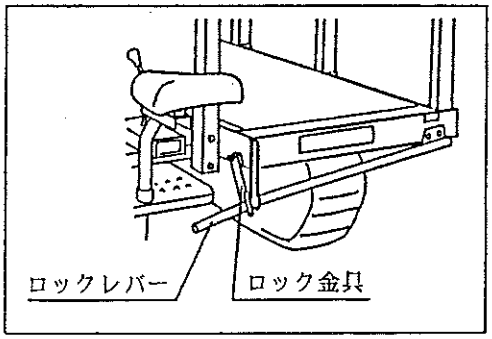
２人でウインチを使用して積み込む場合、ウインチ操作者は荷掛け作業者と相互に緊密な連絡をとりあって作業してください。

## 4．荷締め




サイドボールＡは荷卸しの際下敷きにならないよう、また積荷の固定のためにも必ず荷締め機等で締めこんでください。
（サイドボールＡを利用して荷締めをしていないとロックレバーの解除が異常に重かったり、サイドボールＡが外れないなどするおそれがあります）

## 5．荷卸し




ロック金具を外し、ロックレバーを引き上げると自動的にサイドボールＡが外れます。

(1)荷縛りの解き外しは、材の転落のおそれのある区域に人がいないことを確認してから行ってください。
(2)荷卸しは荷の上部から順に行い、中抜きはしないでください。
(3)荷卸し中は、材の転落のおそれのある区域には立ち入らないようにしてください。

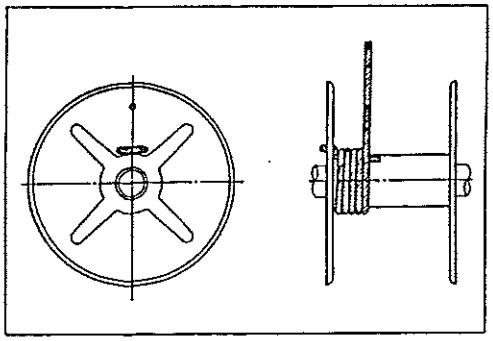
# ワイヤーロープの取扱い

## 使用ワイヤーの寸法

巻胴に使用するワイヤーは、最低８㎜から９㎜程度を御使用ください。
ワイヤー切断荷重は下表の通りです。

| | ８㎜ | ９㎜ |
|---|---|---|
| １号 | ３４２０kg | ４３３０kg |
| ３号 | ３２４０kg | ４１１０kg |

## ワイヤーの取付け方法



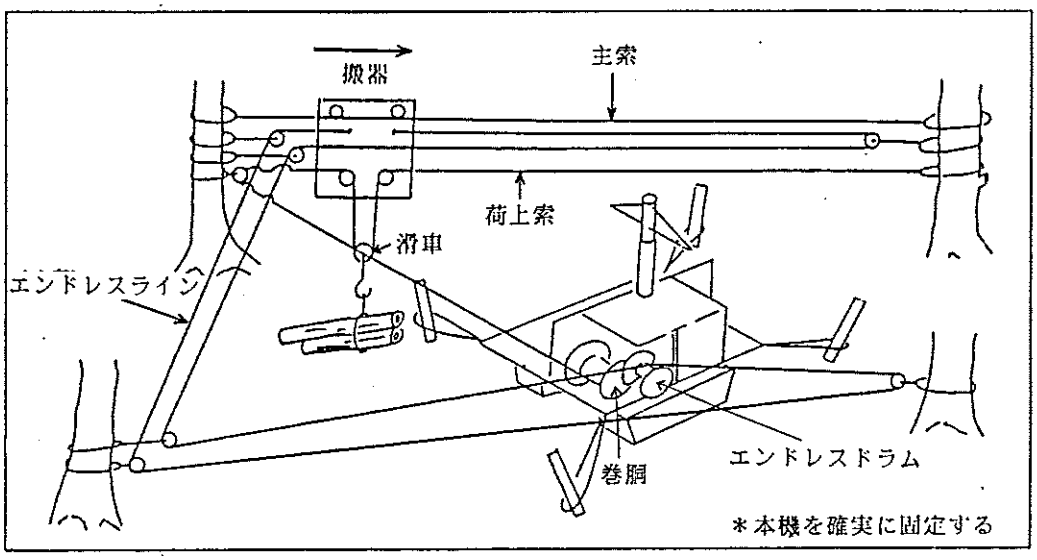
ワイヤーは左図のように取付けてください。
ワイヤーをドラムに巻きつける時、最初の一段目を強く張って平均に巻きますと、これが基礎になり次の段からは正確に巻くことができます。最初から不整に巻きますと、その後は一方だけに重なったり、食いこんだりして甚だしい摩耗を起こし、押しつぶされてワイヤーの寿命を縮めることになります。

(1)ワイヤーロープは、次のいずれかに該当するものを使用しないでください。
- ワイヤーロープ１よりの間において、素線（フィラ線を除く）の数の１０分の１以上の素線が切断しているもの。
- 直径の減少が公称径の７パーセントを越えるもの。
- キンクしたもの。
- 著しい形くずれまたは腐食のあるもの。

(2)ワイヤーロープは最大に引き出した場合、ドラムに二巻以上残すことができる長さとしてください。

(3)フック等については、接合部が受ける荷重によって破壊するおそれのないワイヤーロープで確実に取付けてください。

## 索張り時の使用例　（W2タイプのみ）




①ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」にします。
②ウインチ変速レバーを(Ｆ１)または(Ｆ２)に入れます。
③巻胴クラッチレバーを「巻胴入」に、エンドレスクラッチレバーを「ブレーキ入」にします。
④巻胴ブレーキレバーを「切」にします。
⑤ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」にすると滑車が上がります。
⑥滑車を上げ終ったら、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」にし、巻胴ブレーキレバーを「入」にします。
⑦巻胴クラッチレバーを「中立」にします。
⑧ウインチ変速レバーを所要変速位置に入れます。
⑨エンドレスクラッチレバーを「エンドレス入」にします。
⑩ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」にすると搬器が移動します。
⑪搬器が移動完了後、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」にし、エンドレスクラッチレバーを「ブレーキ入」にします。
⑫ウインチ変速レバーを(Ｒ)に入れます。
⑬巻胴クラッチレバーを「巻胴入」にします。
⑭ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ入、ブレーキ切」にすると同時に巻胴ブレーキレバーを「切」にすれば滑車が下がります。
⑮滑車降ろし完了後、ウインチクラッチ・ブレーキレバーを「クラッチ切、ブレーキ入」にします。

## バッテリー使用上の注意(セル付仕様車のみ)

バッテリーは使い方によって寿命が極端に短くなったりする場合がありますので随時点検することが必要です。

(1)バッテリーの接続

・線をつなぐ場合はプラス(+)を先につなぎマイナス(−)をあとに、はずす場合はマイナスを先にプラスをあとではずすようにします。間違えるとショートによりバッテリーの損傷や、火災になるおそれがありますので御注意ください。

(2)長期保管する場合

・バッテリーは蒸留水を補充し充電した後、放電を防ぐため本機から外し、低温で乾燥した場所に保管してください。

・スイッチの切り忘れやエンストさせたままの放電等は、バッテリーを台無しにする原因となりますので御注意ください。

・バッテリーは使用しなくとも約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するのがバッテリーを長持ちさせる秘訣です。

(3)御使用にあたって

・バッテリー液はいつも基準線の内側にあるのが望ましく、基準線以下にならないよう随時蒸留水を補給してください。

・頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したらしばらく連続運転をしてバッテリーを充電してやるようにしてください。

## 格納

☆クローラの張りボルトを緩めてください。

☆各部を点検し、不良箇所等があれば必ず整備してください。

☆外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部には給油して湿気の少ない場所に格納してください。

☆クローラの下に板等を敷いてください。

☆走行クラッチレバー、駐車ブレーキレバーを「切」の位置にしてください。

☆エンジンについて(ガソリン車のみ)

・点火プラグ取付孔よりエンジンオイルを数滴注入し、クランク軸を数回回して点火プラグを取付け、圧縮位置で止めてください。

・気化器内へガソリンを入れたまま長期間放置するとガソリンが劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期間放置する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
また長期間放置したガソリン、ポリタンク内のガソリンはなるべく使用しないでください。

## 寒冷時の注意

冬期は、使用後必ず車体に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。
（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくとより効果的です）
また、凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。
（無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に御注意ください）

## 工具袋明細

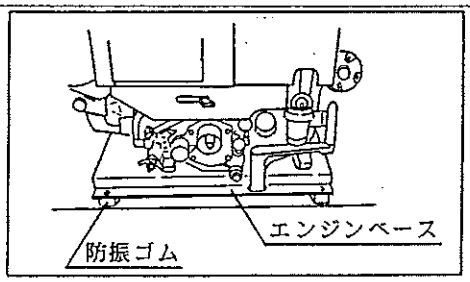
| No | 部品名 | 規格・寸法 | 個数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 取扱説明書 | | 1 |
| 2 | スパナ | 30 | 1 |
| 3 | エンジン工具 | エンジン付属品 | 1 |
| 4 | グリースニップル | M6 | 2 |

# 定期自主点検表

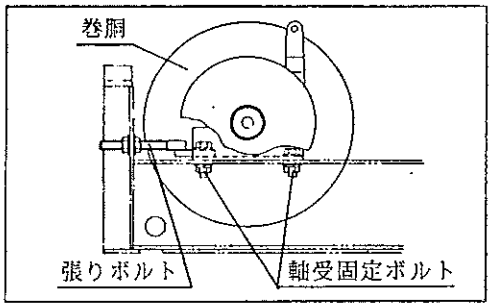
点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期自主点検表」を参考に点検を行なってください。
年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

| 項目 | | 点検内容 | | 点検時期 始業 | 月例 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 原動機 | 本体 | (1)かかり具合、異音 | 始動の際、容易に起動するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)回転数と加速の状態 | 回転速度を徐々にあげ、正常に滑らかに回転するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (3)排気の状態およびｶﾞｽ漏れ | 排気色、排気臭および排気音は正常か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (4)ｴｱｸﾘｰﾅの損傷、緩み、汚れ | 損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | | (5)ｼﾘﾝﾀﾞｰﾍｯﾄﾞと各ﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞ締付け部の緩み | ｶﾞｽ漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。<br>[正常締付けﾄﾙｸで緩みはないか] | | | ○ |
| | | (6)弁すき間 | [正規のすき間であるか] | | | ○ * |
| | | (7)圧縮圧力 | [正規の圧縮圧力であるか] | | | ○ |
| | | (8)ｴﾝｼﾞﾝﾍﾞｰｽの亀裂、変形、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み脱落および防振ｺﾞﾑの損傷、老化 | ｴﾝｼﾞﾝﾍﾞｰｽに亀裂、変形はないか。<br>防振ｺﾞﾑに損傷、劣化はないか、またﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄに緩みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 潤滑装置 | (1)油量、汚れ | ｵｲﾙの量は適切か。<br>ｵｲﾙに汚れ、水・金属等の混入はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)油漏れ | ｵｲﾙｼｰﾙ、ｶﾞｽｹｯﾄ部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (3)ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰの汚れ、目詰まり、損傷 | 著しい汚れ、変形、異物のかみ込みこう着はないか。 | | | ○ |
| | 燃料装置 | (1)燃料漏れ | 燃料の漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)燃料ﾌｨﾙﾀｰの詰まり | 著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。 | | ○ | ○ |
| | | (3)噴射ﾉｽﾞﾙの噴射圧力と噴霧状態 | [噴射圧・噴霧状態は良好か] | | | ○ |
| | 冷却装置(ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ) | (1)冷却水の量、汚れ、水漏れ、ﾗｼﾞｴｰﾀの目詰まりおよびﾎｰｽの損傷、劣化 | 冷却水の量は適切か、また汚れはないか。<br>ﾎｰｽからの水漏れ、ﾗｼﾞｴｰﾀｺｱ部に目詰まりはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)ﾗｼﾞｴｰﾀｷｬｯﾌﾟの機能およびﾊﾞﾙﾌﾞｼｰﾄの損傷 | 水漏れはないか。<br>ﾊﾞﾙﾌﾞｼｰﾄ面に損傷はないか。 | | | ○ |
| | | (3)ﾌｧﾝﾍﾞﾙﾄの緩み、損傷 | 著しい損傷、摩耗はないか。また張り具合は適切か。 | | | ○ |

＊販売店に御相談ください。但し、有料となります。
[ ] 内は参考とします。

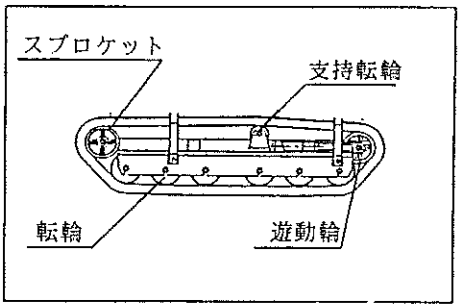
| | 処置・調整 | | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| タンク内の燃料の不足 | | 給油 | 4 |
| バッテリーの容量不足<br>(ｾﾙﾓｰﾀの起動力不足) | | 充電 | 29 |
| 配線の端子の外れまたは断線 | | 接続または交換 | − |
| スロットルワイヤーの折れ、サビ付き | | 交換 | − |
| スロットルレバーの変形、損傷による作動不良 | | 交換 | |
| ガソリンエンジンの場合<br>黒煙を吐く<br>・チョークを閉じている<br>・エアークリーナが目詰りしている<br>白煙を吐く<br>・エンジンオイルが入り過ぎている<br>ディーゼルエンジンの場合<br>黒煙を多量に吐く<br>・エアークリーナが目詰りしている<br>・燃料が悪い<br>白煙を吐く<br>・エンジンオイルが入り過ぎている | | <br><br>全開に<br>清掃<br><br>オイル量調整<br><br><br>清掃<br>良質燃料に交換<br><br>オイル量調整 | − |
| エンジンベースの亀裂・変形<br>交換<br><br>防振ゴムの劣化・損傷<br>交換<br><br>ボルト・ナットに緩みがある<br>増し締め |  | | − |
| 不足<br>汚れが著しい | | 給油<br>交換 | − |
| 漏れがある | | 交換 | − |
| 漏れがある | 燃料パイプ等の亀裂・損傷<br>燃料パイプクランプ部の緩み | 交換<br>増し締め | − |
| 不足<br>汚れが著しい | | 給水<br>交換 | 15 |
| 水漏れがある | ホース等の亀裂・損傷<br>ホースクランプ部の緩み | 交換<br>増し締め | − |
| 目詰りが著しい | | 清掃 | |

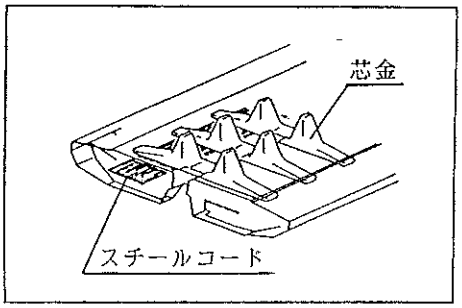
| 項目 | | 点検内容 | | 点検時期 始業 | 月例 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 原動機 | 冷却装置(ディーゼル) | (4)冷却ﾌｧﾝ、ｶﾊﾞｰ等の亀裂、損傷変形および取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み | 亀裂、損傷、著しい変形はないか、また取付け部に緩みはないか。 | | | ○ |
| | 電気装置 | (1)発電機の機能 | 取付け部に緩みはないか。ﾍﾞﾙﾄの張り具合は適切か。 | | | ○ |
| | | (2)ﾊﾞｯﾃﾘｰの液量および端子の緩み | 取付け部および端子部に緩みはないか、ﾊﾞｯﾃﾘｰ液の量は適切か。 | | ○ | ○ |
| | | (3)電気配線の接続部の緩み、損傷 | ﾊｰﾈｽ接続は適切か、また緩み、損傷はないか。 | | ○ | ○ |
| 動力伝達装置 | クラッチ | (1)作動(ﾍﾞﾙﾄﾃﾝｼｮﾝの点検) | ｸﾗｯﾁ“入”、“切”の作動に異常はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)異音 | 接触音はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | Vベルト | (1)緩み | ﾍﾞﾙﾄの張り具合は適切か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)損傷、汚れ | 亀裂、損傷、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | トランスミッション | (1)異音、異常発熱、および作動 | 作動に異常はないか、また異音、異常発熱はないか。 | | ○ | ○ |
| | | (2)油量、汚れ | ｵｲﾙの量は適切か、また著しい汚れはないか。 | | | ○ |
| | | (3)油漏れ | ｵｲﾙｼｰﾙ、ﾊﾟｯｷﾝ部に油漏れはないか | | ○ | ○ |
| 操縦装置 | ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ | (1)遊び、緩み、ｶﾞﾀ | ﾚﾊﾞｰの遊びは適切か、また取付け部に緩み、ｶﾞﾀはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)操作具合 | ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁの効き等、作動に異常はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 制動装置 | 駐車ブレーキレバー | (1)効き具合 | ﾌﾞﾚｰｷの効きは甘くないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | ﾛｯﾄﾞ、リンク及びﾜｲﾔｰ類 | (1)損傷、緩み、ｶﾞﾀ、割ﾋﾟﾝの欠損 | 著しい損傷および緩み、ｶﾞﾀはないか、欠陥部品はないか。 | | ○ | ○ |
| 作業装置 | ウインチ | (1)作動、損傷、異音 | 作動に異常はないか、また作動中に異音はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 作業機レバー | (1)緩み、作動、摩耗、変形 | 作動に異常はないか。各取付け部に緩み、摩耗、変形はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | ワイヤロープ | (1)摩耗、ｷﾝｸ | 摩耗、ｷﾝｸ、素線の切断、腐食等はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | ボール | (1)損傷、異音 | 著しい損傷、変形はないか、また吊り上げ時の異音(ｷｼﾐ音)はないか。 | ○ | ○ | ○ |

| 処置・調整 | | 参照ページ |
|---|---|---|
| クラッチの切れが悪い<br>Vベルトが滑る | 調整 | 16 |
| テンションアームの作動不良（動きがかたい） | 給油 | − |
| ベルトストッパー調整不良 | 調整 | 18 |
| 遊びが大きい | 調整 | 17 |
| 効きが悪い | ミッションのアジャストボルト調整 | 17 |
| 効きが甘い | ブレーキ調整 | 16 |
| ・巻胴の著しい変形・損傷 | 交換 | − |
| ・巻胴チェーンの接触・緩み | 下記調整 | |
| チェーン張り調整<br>巻胴軸の軸受固定ボルトを緩め、チェーンの中央部を引き「たわみ量」が10㎜程度になるように、また、巻胴軸とウインチミッション出力軸が平行になるように、張りボルトにて調整し固定ボルトを締付ける。 |  | |
| ・巻胴のブレーキドラム内の当たり | 巻胴ブレーキ調整 | 28 |
| ウインチクラッチの切れが悪い<br>ウインチブレーキの効きが甘い | 調整 | 28 |
| 巻胴ブレーキの効きが甘い | 調整 | 28 |
| ・巻胴クラッチレバー<br>・エンドレスクラッチレバー | レバーの動きとガイドバンの位置があっていない<br>ガイドバンの長穴にて調整 | − |
| ・各レバーおよびガイドバンの著しい変形・損傷 | 交換 | |
| ・レバー取付けボルトの緩み | 増し締め | |
| 26ページ“注意”の項目に該当する場合 | 交換 | 26 |
| 損傷・変形が著しい | 修理または交換 | − |

| 項目 | | 点検内容 | | 点検時期 始業 | 月例 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 車体・安全装置等 | 車体 | (1)亀裂、変形よおび取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落 | 車体の亀裂、変形、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み脱落はないか。 | | ○ | ○ |
| | カバー | (1)亀裂、変形、腐食 | 亀裂、変形、腐食、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩みはないか。 | | | ○ |
| | 座席 | (1)取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落 | 取付け部の変形、損傷および取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落はないか。 | | | ○ |
| | 手すり | (1)変形、損傷 | 著しい変形、損傷はないか。 | | | ○ |
| | 警報装置 | (1)作動、取付けおよび損傷 | 作動に異常はないか、また著しい損傷はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 走行装置 | スプロケット<br>遊動輪<br>転輪<br>支持転輪 | (1)亀裂、変形、摩耗 | 著しい亀裂、変形、摩耗はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)軸部の異音、異常発熱 | 不連続音、異常発熱はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (3)取付け部ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落 | 脱落、緩みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (4)油漏れ | ｼｰﾙ部から異常な油脂の流出はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | クローラ | (1)ｽﾁｰﾙｺｰﾄﾞの損傷、ｺﾞﾑの欠け、劣化摩耗、芯金の脱落 | 著しいｽﾁｰﾙｺｰﾄﾞの損傷、ｺﾞﾑの欠損劣化、摩耗、芯金の脱落はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)張り具合 | ｸﾛｰﾗの張り具合は適切か。 | ○ | ○ | ○ |
| 変速装置 | チェンジレバー | (1)操作具合 | 作動に異常はないか。<br>各変速位置に確実に入るか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | (2)緩み、ｶﾞﾀ | ﾚﾊﾞｰおよびﾛｯﾄﾞの取付け部にﾈｼﾞの緩みまたはｶﾞﾀはないか。 | ○ | ○ | ○ |

| 処置・調整 | 参照ページ |
|---|---|
| ホーンの配線の端子の外れまたは断線　接続または交換<br>セル付きエンジン　キースイッチ“入”時　ホーン作動<br>セルなしエンジン　エンジン回転時のみ　ホーン作動 | － |
| 損傷が著しい　交換 | － |
| 不連続音、異常発熱がある<br>分解後不良部品　交換<br>またはアッセンブリー　交換 | － |
| 緩みがある　増し締め<br>脱落箇所　取付け(購入) | － |
| 流出がある<br>オイルシール　交換<br>またはアッセンブリー　交換 | － |
| スチールコード切断、芯金折れ、芯金とれの発生　交換 | － |
| 緩みまたは張り過ぎ　調整 | 18 |
| レバー、ロッド類の作動不良（動きがかたい）　摺動部　給油<br>グリースニップル　給脂<br>緩みがある　増し締め | － |



# 仕様

1）本機仕様

| 型式 | | | BFY702・706 | BFY902・906 |
|---|---|---|---|---|
| 車体寸法 mm | | 全長 | 2060 | |
| | | 全幅 | 1230 | 1320［1240］ |
| | | 全高 | 2175 | 2195 |
| 履帯 mm | | 接地長さ | 960 | |
| | | 幅 | 250 | 230 |
| | | 中心距離 | 730 | |
| 荷台内寸 mm | | 長さ | 1800 | |
| | | 幅 | 600 | 680［600］ |
| 床面高さ mm | | | 485 | 505 |
| エンジン | ガソリンエンジン | 連続定格出力 | 5.2～5.5PS/1800rpm | 7.0PS/1800rpm |
| | | 最大出力 | 7.2～7.5PS/2000rpm | 8.5PS/1800rpm |
| | | 始動方式 | リコイル、セル | |
| | ﾃﾞｨｰｾﾞﾙエンジン | 連続定格出力 | 6.0PS/2400～2600rpm | 7.0PS/2400～2600rpm |
| | | 最大出力 | 7.0PS/2400～2600rpm | 8.0PS/2400～2600rpm |
| | | 始動方式 | 増速ハンドル、セル | |
| 車体重量 kg | W 1 タイプ | ガソリン車 | 540（550） | 575（585） |
| | | ディーゼル車 | 600（620） | 625（645） |
| | W 2 タイプ | ガソリン車 | 550（560） | 590（600） |
| | | ディーゼル車 | 610（630） | 640（660） |
| 最大作業能力 kg | | | 750 | 1000 |
| 最小回転半径 mm | | | 1450 | 1500 |
| 最低地上高 mm | | | 160 | |
| 登坂能力 | | | 25°（空車時） | |
| 安定度（無負荷状態） | | 右方向 | 44° | |
| | | 左方向 | 30° | |
| 速度 | 段数 | 前進 | 3 | 4 |
| | | 後退 | 2 | |
| | ガソリン車 km/h | 最高速度 | 6．1 | 6．5 |
| | | 最低速度 | 2．0 | 1．5 |
| | ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ車 km/h | 最高速度 | 5．5 | 6．7 |
| | | 最低速度 | 1．8 | 1．6 |
| クラッチ | | | ベルトテンション方式 | |
| ブレーキ | | | 内拡式ブレーキ | |

※（　）内はセル付きエンジン搭載車の重量を示します。
※本仕様は日本国仕様です。
※本仕様は改良により予告なく変更することがあります。
※［　］内は幅狭荷台仕様を示します。

2）ウインチ仕様

| | | | | BFY702・706 | BFY902・906 |
|---|---|---|---|---|---|
| W1タイプ | ドラム巻取り速度 (m/min) | ガソリンエンジン | F1 | 5．2～18．2 | |
| | | | F2 | 9．5～33．1 | |
| | | | R1 | 8．2～28．5 | |
| | | ﾃﾞｨｰｾﾞﾙエンジン | F1 | 5．2～18．3 | |
| | | | F2 | 9．6～33．4 | |
| | | | R1 | 8．2～28．7 | |
| W2タイプ | ドラム巻取り速度 (m/min) | ガソリンエンジン | F1 | 5．7～17．7 | 5．4～16．9 |
| | | | F2 | 14．3～44．7 | 10．8～33．7 |
| | | | F3 | － | 16．8～52．6 |
| | | | R1 | 5．7～17．7 | 5．0～15．7 |
| | | | R2 | 14．3～44．7 | 10．0～31．3 |
| | | ﾃﾞｨｰｾﾞﾙエンジン | F1 | 5．7～17．9 | 6．1～19．0 |
| | | | F2 | 14．5～45．2 | 12．1～37．8 |
| | | | F3 | － | 18．9～59．1 |
| | | | R1 | 5．7～17．9 | 5．6～17．6 |
| | | | R2 | 14．5～45．2 | 11．2～35．1 |
| | エンドレスドラムワイヤー速度 (m/min) | ガソリンエンジン | F1 | 19．8 | 18．8 |
| | | | F2 | 49．9 | 37．6 |
| | | | F3 | － | 58．7 |
| | | | R1 | 19．8 | 17．5 |
| | | | R2 | 49．9 | 34．9 |
| | | ﾃﾞｨｰｾﾞﾙエンジン | F1 | 27．3 | 28．9 |
| | | | F2 | 68．9 | 57．7 |
| | | | F3 | － | 90．1 |
| | | | R1 | 27．3 | 26．9 |
| | | | R2 | 68．9 | 53．6 |
| ボール吊り上げ能力 kg | | | | 200 | |
| 巻取り長さ m | | | | 約100 （ワイヤー8mmにて） | |

※本仕様は改良により予告なく変更することがあります。

# 株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ■本社営業部 | 0943(75)2195 | FAX (75)4396 | ■埼玉センター | 0495(77)4511 | FAX (77)1561 |
| ■貿易センター | 03(3552)6277 | FAX (3552)6288 | ■大阪センター | 0790(42)6031 | FAX (42)6035 |
| ■東京センター | 03(3552)6255 | FAX (3552)6288 | ■広島センター | 0824(34)5996 | FAX (34)5997 |
| ■仙台センター | 022(281)1255 | FAX (281)3141 | ■福岡センター | 0943(76)2583 | FAX (75)5126 |


連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。